



## ■新年ごあいさつ■



あけましておめでとうございます。

私たちの活動の原点、福島原発事故から、6年が経とうとしています。

政府、電力会社は、反対する国民の声を無視し、目先の利益を追い求め、原発の再稼働に突き進んでいます。甚大な被害をもたらした福島原発事故の犠牲もむなしく、再び作られた安全神話により、私たちは、再び、原発に脅かされる暮らしを余儀なくされています。

他方、福島原発事故によって、政府や大企業の欺瞞に気づきを得た市民も、この6年間で変革をしてきました。原発ゼロを求め、声を上げ始めた市民の運動は、秘密保護法、ヘイトスピーチ、空前の広がりを見せた安保法制反対運動へとつながりました。そして、昨年参議院選挙では、市民主体となった新しい選挙運動へと発展し、画期的な野党共闘の実現へ結びつきました。市民の力は、決して無力ではないのです。

私たちは、川崎地域に根ざして、「目先の経済的利益よりも一人ひとりの命や暮らしを大切に共生できる社会をめざす」価値観を共有する、小さいが無数の市民の声とつながっていき、再生可能エネルギーの普及活動を軸に、設立の理念である「原発ゼロ」「市民による市民のためのエネルギー革命」を目指して前進する覚悟です。

本年も、みなさまのご参加、ご協力よろしくお願い申し上げます。

理事長 川岸 卓哉



1号機完成記念写真  
撮影日：2015/2/1



## ■スィノップから日本のあなたへ■

高台に登って街を眺めると、函館に見間違ふような景色。人口約6万人の都市。スィノップ。1日で観光できるくらいにこじんまりとした街で、お魚が美味しい海辺の街。少し離れた場所での滝のツアーやトレッキングが有名な、自然豊かな場所です。

東日本大震災以降、私は福島の子どものための保養に関わりながら、大学院の研究でトルコに行く中で、日本の原発輸出が進められている場所に行って話を聞いておかなければならないと思い、スィノップに向かいました。

このスィノップのインジェブルヌ（トルコ語で細い鼻）と呼ばれる半島に、新たな原子力発電所の建設計画があります。エネルギーの輸入依存度の高い（2010年時点では71%）トルコは、主にイラン・イラク・ロシアから石油や天然ガスを輸入しています。経済政策として、エネルギーの自給率を高めるために、自国内に原子力発電所を作ろうとしています。

2013年5月に安倍首相とエルドアン大統領によって原子力協定が結ばれ、スィノップでの発電所計画が立てられました（地震の多い地域であるということと、福島の事故が収束できていないという点から野党の反対がありました）。その後、原子力工学者育成も含めた科学技術系の大学の建設計画も作られています。

しかし、ここ黒海沿岸はチェルノブイリ原発事故で大きな影響を受け、それ以降反原発運動も行われてきた地域で

す。チェルノブイリの原発事故があった4月26日前後の日曜日には、毎年トルコの各地から電気技術者協会や反原子力プラットフォームの人々が集まって、反原発集会が開かれています。

建設が計画されているという半島に行ったところ、原子力発電所の建設のためとみられる森林伐採が行われていました。また、この周辺地域には農民として生活をしている人が多いそうで、家畜を飼ったり畑をして生活している様子が見られました。そして、灯台には灯台守として生活している人もいます。原発建設が始まると、周囲の人たちは立ち退きをすることになるのではという話を聞きました。誰かの生活を変えて作られる「発電所」とはいったい何なのか。そんなことを考えさせられました。

「日本人」と言って反応が違ったことも印象的でした。タクシーの運転手さんから「前に反原発活動のために来た人を乗せた」（一部勘違いもあったのですが）と言われたり、地元のハمام（大衆浴場のようなところ）では「これから日本人がたくさん来るんだ。原発関係でね」と言われたりしました。トルコに行くと、日本の技術というものへの憧れと信頼が強いと感じるのですが、「日本はいい技術を持っているんだから大丈夫だ」と言われた時には、そうかな、と思わず言葉が出てしまいました。いまだに「収束」していない福島原発事故のことを伝えきれていないということに気づかされました。

「あなたには何ができるのか」。何気なく反原子力プラットフォームの方から投げかけられたこの言葉はとても重い宿題となっています。新たに原子力発電所ができるということの持つ意味を、こちらからも、「伝える」ということをしなければいけないということを感じています。

会員 小川 杏子



## ■ 『もし浜岡原発が爆発したら！？』学習会報告■

昨年6月に海渡雄一弁護士から「原発訴訟の現状」をお聞きし、8月は甫守一樹弁護士に「原発訴訟の基礎講座」を講義してもらい、9月には浜松から落合勝二さんをお呼びして「浜岡原発の危険性、神奈川・川崎との関係について」の学習会をし、10月には東京高等裁判所でおこなわれた「浜岡原発訴訟口頭弁論」を傍聴しました。浜岡原発の危険性については、かなり知識が深まりました。また、神奈川・川崎で裁判を起こすと仮定して、漠然としているものの、何となくイメージをつかめたような気がしています。

さて、これからどう進めていくか……。原発事故を「遠くの話」ではなく、神奈川に住んでいる人に「自分ゴト」として捉えてもらう必要があるということで、浜岡原発事故が起きたら神奈川・川崎はどうなるのか、まずは自分たちで発表してみよう！ということになり、岩坂康佑理事と田中哲男副理事長に白羽の矢が立ちました。

12月25日（日）、『もし浜岡原発が爆発したら！？』～シミュレーションを自分たちでやってみよう～の学習会を開催し、理事ら14人が参加しました。

岩坂理事からは「神奈川の特質と被害・影響」について。神奈川県観光産業は全事業所の26%でそのうち海に面した事業所が7割を占めることから、浜岡から海水が北上するため「観光産業」への影響は避けられない。また、横浜港からの輸出量は全国で3番目に多いため「貿易産業」にも影響を及ぼすだろう。何よりも人口が密集している神奈川では様々な被害が波及するだろうとのこと。



浜岡原発の危険性について発表する田中副理事長

田中副理事長からは、パワーポイントを使って「浜岡原発の危険性」について発表。浜岡原発は南海トラフ巨大地震の震源域にある“世界一危険な原発”である。特異な海底地形により巨大化した津波は22mの防波壁を軽々と超えてしまうだろうし、引き波によって水位が低下して取水筒から冷却水が取れなくなれば、冷却機能が喪失して重大事故を引き起こす。それに対して中部電力の想定はあまりにも緩すぎる。また、静岡県防災計画を見る限り、原発過酷事故が起これば住民の避難は困難を極めるだろう。南西の風向き（偏西風）では、放射能が神奈川を直撃するまで6時間というシミュレーションも出ているとのこと。

浜岡原発は神奈川県民にとって「最も近くて最も危険な原発」です。完全に停止するためのアクションをこれからも続けていきます。

副理事長 加藤 伸子





## 21世紀を「環境」と「コミュニティ」の世紀に ～環境まちづくり NPO エコメッセ～

環境まちづくり NPO エコメッセ 理事長 大嶽 貴恵



「生活クラブ・ケアセンター世田谷」の太陽光パネルの横に立つ鈴木礼子さん（社会福祉法人悠遊）と大嶽理事長。

環境まちづくり NPO エコメッセは、自然との共生を優先したまちづくりを実践し、環境負荷をかけない循環型社会を作り出すことを使命としています。

エコメッセは2001年に東京都練馬区で市民団体として生まれました。きっかけの一つには1986年のチェルノブイリ原発事故があります。その後、生活クラブ生活協同組合・東京の環境分野での具体化の一つとして東京全体に広げることがをめざし、2002年に特定非営利活動法人エコメッセとなりました。

エコメッセは、大量生産・大量消費・大量廃棄でゴミを増やし自然を破壊し環境を損なう社会に対するアンチテーゼとして、市民の皆様から寄付されたご家庭で不要な衣料品・食器・雑貨等を、そのままあるいは再生して販売するリユースショップを運営し、その売上げを使って環境活動を行うチャリティショップです。店舗は環境活動の拠点であると同時にまちづくりの拠点ともなっています。（2017年1月現在 15店舗）

「自然エネルギーの普及・活用」を推進する地域は、店舗の屋号を「元気力発電所」とし福祉施設や保育園などに市民発電所の設置を行っています。今までに8か所に設置しました。

2013年には全地域結集の下、「社会福祉法人悠遊」が運営する東京都世田谷区の「生活クラブ・ケアセンター世田谷」の屋上に11.52kWの太陽光発電所を設置し、2016年4月からは全発電量を生活クラブエナジーに売電しています。非常時には、小規模多機能ホーム、グループホームなどが入る「生活クラブ・ケアセンター」で使う契約にしています。売電収入は次の環境活動へ活かすため発電基金として活用していきます。

また、太陽光パネルの設置を進める活動を専門性のある団体（市民電力連絡会、たまエンパワー等）と連携を深めながら市民発電所作りを進めるとともに、ソーラーランタン、ソーラークッカー、その他のソーラー製品の代理店となり、身近で取り組める自然エネルギーの普及活動を進めています。

### 【編集後記】

年末・年始と立て続けに、当NPO法人にとって飛躍的な動きがあり、小躍りしています。まだ正式に発表できる段階ではないのですが、1/23（月）18：30～ エボック中原5階にて「全体会議」の中でお伝えできますので、初めての方もどうぞ参加ください！（加藤伸子）

### ■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は毎月15日に発行しています。

